

話すこと・聞くこと

大事なことを落とさずに聞き、工夫されたメモを取ること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。

具体的なつまずきの姿

- ・何でもメモしようとして、大事なことを聞き落としてしまうメモになる。
- ・メモはしているが、整理の仕方が不十分で、話のまとまりがとらえられていないメモになる。
- ・聞きながらメモを取ることに追いつけず、途中で書ききれないメモになる。

実践の概要

単元名

大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう

『聞き取りメモの工夫』光村図書

- 目標
- ・話を聞き、要点をメモに取る。
 - ・目的や必要に応じて情報を聞き分け、自分にとって大事なことを聞き取る。
- 内容
- ・メモを取った経験について話し合う。
 - ・メモを取ってみる。
 - ・メモの工夫について話し合い、まとめる。
 - ・実際の場面でいかす。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

単元末の目指す姿

- ・話の中心である大事なことを聞き落とさずに、自分にとって必要な情報を聞き取れる。
- ・聞きながらメモをする中で、メモを書くときの工夫と、後で見直したときにわかりやすくなっているメモの工夫を使うことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

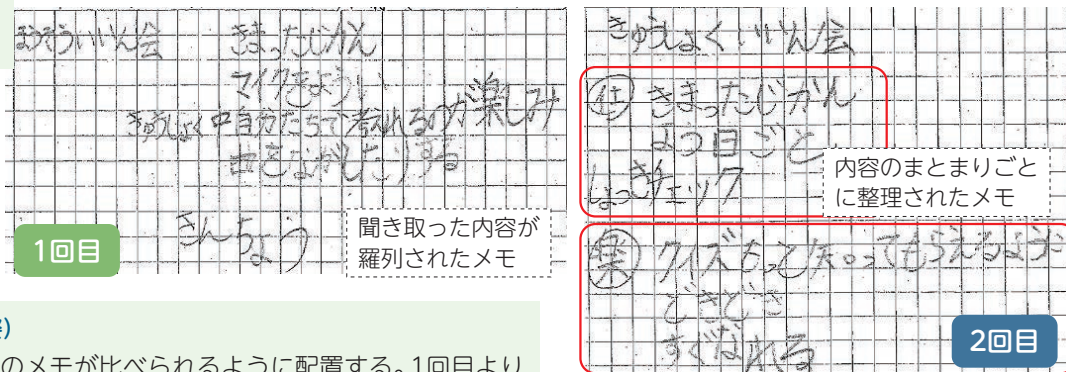
同じ構成で内容を変えた説明を聞き、メモを取って比べる活動を行う。

活動のねらい ▶ 1回目の聞き取りメモと、2回目の聞き取りメモを比べ、自分のメモが工夫を勉強したことでより良くなったことを実感する。

ここがポイント

説明はゆっくりと話し、話のまとまりがとらえやすい構成にして用意する。1回目と2回目は、同じ構成で内容を変えた説明にする。そうすることで、工夫を話し合った後、2回目の説明を聞きながら、余裕をもって、まとめた工夫をいかしながらメモを取ることができる。

メモの変化



(期待される児童の姿)

ワークシートも2つのメモが比べられるように配置する。1回目よりも2回目の方が、話のまとまりで整理するという工夫をいかし、話のまとまりがとらえられているメモを書けるようになったことを実感させる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

友達のメモや、教科書のモデルメモから工夫を見つけ、話し合う活動を行う。

活動のねらい ▶ 友達のメモや、教科書のモデルメモから工夫を見つけることで、キーワードを書くなどの聞きながらメモを取る工夫と、内容ごとに整理するなどの後から見やすいメモにする良さを知る。

ここがポイント

班の中で自分のメモの工夫を紹介し合う。そして、全体には、班の中で最も工夫されたメモを紹介させる。発表では、その工夫をした理由を話させるようにする。また、全体では、教科書のモデルメモを提示し、友達同士では見つからなかった工夫を見つけさせる。それでも見つからない時は、教師が示す。

授業の様子



(期待される児童の姿)

なぜその工夫がいいのか理由をはっきり話すことで、「聞きながら取れる工夫」なのか、「後で見やすい工夫」なのかが伝わり、他の児童も理解しやすい。2回目を行う前には、児童にどの工夫を使って取り組むのかを決めてからメモをするように指示すると理解しやすい。

書くこと①

第4学年

調べたことの中から書くことを決め、写真と文章を関係付けて紹介文を書くこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。

ポールクラブを選んでください。

このように、喜びが味わえるクラブなので、ぜひバスケットボールクラブを選んでください。



ぼくが3年生におすすめするクラブ活動は、バスケットボールクラブです。なぜかというところ、上手くなる喜びが味わえるからです。ぼくは、3ポイントシュートが決められなかったけど、できるようになりました。

バスケットボールクラブを紹介する理由として、上手くなる喜びを挙げているにもかかわらず、シュートをしている様子などの効果的な写真が選べていない。

実践の概要

単元名

3年生にクラブのよさを伝えよう

『クラブ活動リーフレット』を作ろう 光村図書

目標 伝えたいクラブの良さを明確にし、文章と写真を対応させて紹介文を書くことができる。

- 内容
- 3年生に伝えるクラブ活動の良さを考える。
 - 紹介文の説得力を上げる写真について考える。
 - 伝えたいことと写真が合っているか助言し合う。
 - 写真を使って紹介文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	説得力のある意見文を書いて、お別れ遠足の思い出を作ろう	自分の意見が深められなかったり、自分の考えを支える効果的な根拠が挙げられなかったりしている。
第5学年	提案書を書いて、班のつどいを『超変革』!	自分の考えを、他の視点から見直したり、他の条件などと関係付けたりすることができない。
第4学年	3年生にクラブのよさを伝えよう	自分の考えを明確にして、伝えたいことを写真や絵と関係付けた紹介文を書けていない。
第3学年	ぼうけん物語の作者になって出版記念会を開こう	内容的なつながりを考えて書きたいことを決めることができない。
第2学年	かんさつ名人になろう	観察したことから書くことを選んだり、簡単な構成で文章を書いたりすることができない。
第1学年	しらせたいなカードで、鈴原小学校の『いきもの』をしらせよう	メモしたことをもとにして、観点ごとにまとまりのある文章に書き表せない。

単元末の目指す姿

- 写真と自分の考えを関係付けることで、自分の考えをさらに明確にすることができるようになる。
- 写真と考えとの関係を交流することで、客観的にその関係について考えることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

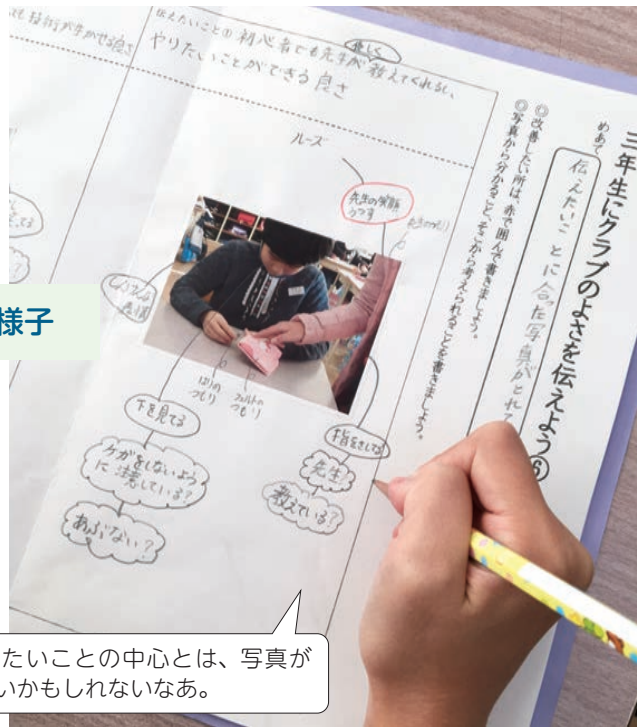
自分の考えと、写真が合っているかを考えさせる。

活動のねらい▶ • 考えと非連続型テキストを関係付けることができる。

ここがポイント

自分が伝えたいことを上部に書かせることで、伝えたいことと写真との関係を意識させる。また、写真から客観的にわかることと、自分が考えたことを区別して書かせる。

授業の様子



(期待される児童の姿)

教科書から学んだ、写真と考えを関係付ける方法を使って、自分の写真を考えと関係付けて吟味する。写真を吟味することで、自分の考えをより明確にすることができる。

自分の言いたいことの中には、写真が合っていないかもしれないなあ。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

友達の考えと写真が合っているかを考え助言し合う活動を行う。

活動のねらい▶ • 助言することで、写真とテキストの関係を客観的に見直すことができ、自身のワークシートの修正点にも気付くことができる。

ここがポイント

写真を見てわかることと、そこから考えたことを区別して書かせたワークシートをもとに交流させる。
→相手の意図を踏まえた助言につながる。

授業の様子



もっと写真をアップにすると言いたいことが伝わりやすいかもしれない。

言いたいことはわかったけど、この写真のこの部分は どうしてこんなにアップなの？

(期待される児童の姿)

考えと写真とのつながりを発表したり、助言し合ったりすることで、非連続型テキストと連続型テキストとの関係付けができ、自身の内容についても客観的に見直したり修正点を考えたりすることができる。

第4学年

書くこと②

内容を項目ごとに整理し、接続語や指示語、文末表現を効果的に使って、自分の考えを書きまとめること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。

文末表現に「思います。」を多用している。

自由で、一人で歩けるようになったら、とてもうれしいと思います。いろいろな所に行ってみたくなくとも思います。

繰り返し、同じ表現を書き、指示語を使っていない。

必要ところで、接続語（「そして」等）が使えていない。

実践の概要

単元名

わたしたちの生活とロボットについて考えよう

『わたしの「ゆめのロボット」』東京書籍

目標 自分の「ゆめのロボット」について考えを整理し、説明文の形式で文章に書くことができる。

内容 ・文章構成にどんな工夫があるか考える。

・効果的な接続語や指示語、文末表現に線を引く。

・「ゆめのロボット」の4項目について、ワークシートを活用しつなぎ方を検討し合う。

・自分の考える「ゆめのロボット」の説明文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第6学年	町の未来をえがこう	資料を正確に読み取っているが、「この資料が本文に述べられている要旨につながるものではない」という判断ができていない。
第5学年	和の文化について調べよう	自分の考えを明確に伝えるために文章構成を考えているが、効果的ではない。
第4学年	わたしたちの生活とロボットについて考えよう	様々な角度から考え、内容を整理して書くことや接続語や指示語、文末表現を効果的に使って書くことができない。
第3学年	要約名人になってもうどう犬リーフレットを作ろう	中心となる言葉や文を見つけて要約することができず、長い文を書き写してしまう。
第2学年	どうぶつのひみつをみんなでさがろう	見つけた大事な言葉を使って、順序よく書きまとめたり、不要な言葉を省いたりすることができていない。
第1学年	サラダでげんきおしゃべりレシピをつくろう!	大事な言葉を見つけ、順序に注意して正しく文や文章を書くことが難しい。

単元末の目指す姿

- ・様々な角度から物事を考え、内容を項目ごとに整理して書くことができる。
- ・接続語や指示語、文末表現の役割を理解し、文章構成を考えながら内容を読むことができる。また、それらを効果的に使いながら自分の考えを書きまとめることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

視点ごとに色分けして線を引き、多面的な文章構成の工夫に気付かせ、自分の作文にもいかすことができるようにする。

活動のねらい ▶ 本文の具体例を参考にして自分の考えを整理し、様々な角度から文章を構成できるようにする。

5つの視点を整理するワークシート

F	E	D	C	B	A
作った人の願い	使う人の願い	可能性	どんな人が活用するか	どんなことに役立つか	名前
<p>自分の体を自分で動かしたいという人の気持ちにこたえたい</p> <p>心も助けた</p>	<p>自分の体を自分で動かしたい</p>	<p>ねたきりの人が少なくなる</p> <p>歩けな人が自分</p>	<p>工場や倉庫で働く人</p> <p>病気をやがて体を動かせなくなった人</p> <p>介護するしめて働く人</p>	<p>重いものを持ち上げる</p> <p>体の不自由な人の歩行を助ける</p>	<p>マッスルスーツ</p> <p>アクティブ歩行器</p>
<p>ゴッドハンド手ぶら</p> <p>自由に動かしたい</p> <p>自由に動かしたい</p> <p>自由に動かしたい</p>	<p>自由に動かしたい</p>	<p>歩けな人が自分</p> <p>歩けな人が自分</p>	<p>体が不自由な人</p> <p>自分で自分の体がうまく動かさない人</p>	<p>体が不自由な人の歩行を助ける</p>	<p>ゴッドハンド</p> <p>手ぶら(くろくろく下)</p>

☆自分の「ゆめのロボット」について、表に整理しよう。

ここがポイント

本文の具体例の内容を5つの視点で整理し、ワークシート上部に配置。それらを参考にしながら書かせることで、自分の「ゆめのロボット」についても様々な角度から考えを整理できるようにする。

(期待される児童の姿)
ロボットの「働き」「活用」「可能性」「考え・願い」と項目を分けて書くことで内容を整理し、自分の考えを明確にして書くことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★対話的な学びにつながる実践

視点のつながり方等についてインタビュー形式で検討し合いながらワークシートに書きまとめる活動を行う。

活動のねらい ▶ 項目別に書くことで文章構成を意識して書きまとめることができる。また、インタビュー形式にすることで、自分の意図や考えを伝える必然性をもたせる。

ここがポイント

検討し合うことで、相手に意図が伝わっているのかを確認、校正することができる。また、順接、逆説、換言、例示等の様々な接続語や指示語の使い方を理解し、より適切な言葉を選ぶ力が育つ。

(期待される児童の姿)
項目別に整理した内容をどうつなげるといいかを検討し合うことで、効果的な接続語や指示語、文末表現の使い方が明確になるなど、対話的な学びにつなげることができる。

ワークシート②

歩	私	は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。																												
は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。	歩	は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。														
は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。	は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。	は	ま	る	こ	を	使	い	な	い	と	い	ふ	た	な	す。

接続語や指示語、文末表現を効果的に使って

第4学年

書くこと③

目的や表現の仕方の関係を考えて文章を書くこと

つまずきの実態
～こんな児童の姿が見られませんか？～

2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。

役割や目的が具体的に示されていない。

中心に書かれている。明書は、使用方法や使用上の注意などを

それは、説明書は、使用方法や使用上の注意などを

伝えようとするものです。

け多くの人に上手く

るところをできるだけ

ちようやすくれている

広告は、商品の特色

広告の目的は書かれているが、その目的に合わせた表し方の工夫が具体的に示されていない。

実践の概要

単元名 広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう
『広告と説明書を読みくらべよう』東京書籍

目標 目的に合わせた表現の違いに気を付けながら2つの文章を読み、その違いをまとめ、目的と表現の仕方の関係を考えて広告を書く。

- 内容**
- 目的と表現の仕方の関係を考えて、広告を書くという単元の見通しをもつ。
 - 広告と説明書それぞれの目的に応じた表し方の工夫や違いを、キーワードを使ってまとめる。
 - 目的と表現の仕方の関係を考えて広告を書く。
 - 広告を交流し合い、単元を振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の投書を新聞に投稿しよう	自分の主張に沿った理由とその理由につながる根拠が書けない。
第5学年	「和の魅力リーフレット」を作ろう	目的に応じた小見出しを作り、その内容を説明する文章を自分の考えと区別して適切な資料を入れながら書けない。
第4学年	広告大賞を目指して、夢の〇〇商品の広告を作ろう	2つの文章を読み取り、それぞれの意図や目的による違いが挙げられない。
第3学年	理由がわかるように書こう	自分の考えたこととその理由を整理し、順序立てて書くことができない。
第2学年	絵を見てお話を作ろう	場面がつながるように、伝えたい事柄を決められない。
第1学年	のりものかるたをつくろう	調べたことから、学習のめあて(役目・つくり・できることを意識して書く)に則した伝えたい内容が決められない。

単元末の目指す姿

- 2つの文章を比較しながら読み、目的と表し方の結び付きがわかるように、それぞれの違いに気を付けながら文章にまとめることができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

書かれている事柄の違いや表し方の工夫について話し合い、違いをわかりやすく板書で整理する。

活動のねらい ▶ 目的や意図に応じた取り上げ方の違いや表し方の工夫に気付くことができる。

ここがポイント

広告と説明書の書かれている事柄や表し方について、読み取ったことを話し合わせる際、板書を上下に分け、広告と説明書を左右に分け、書かれている事柄と表し方の工夫について示すなど構造的に書きまとめ、それぞれの目的や書き手の意図に気付くようにする。

授業の様子

説明書には注意してほしいことがいっぱい書いてあるね。

広告は商品の特徴やキャッチコピー、商品のいいところが書いてあるよ。



広告は短い言葉で、説明書は詳しく書いてあるね。

広告にキャッチコピーが書かれているのはたくさんの人に買ってもらうためじゃないかな。

(期待される児童の姿)

書かれている事柄や表し方の工夫の違いを話し合わせ、板書で明確に整理することで、目的と表現のしかたの関係に気付くようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

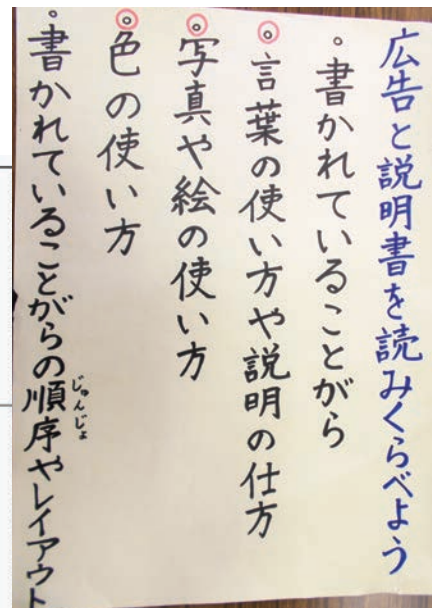
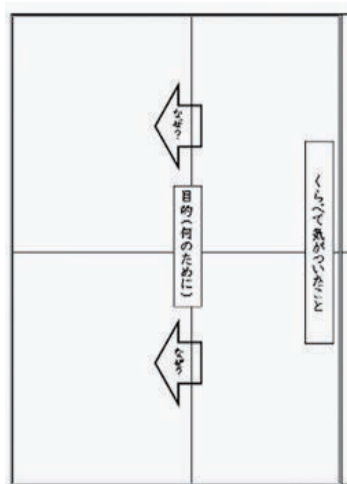
整理した内容からキーワードを提示し、そのキーワードを使って、目的と表し方の結び付きに気を付けながら、違いをワークシートにまとめさせる。

活動のねらい ▶ 2つの文章を読み比べ、目的と表し方の結び付きがわかるように、違いを文章にまとめることができる。

ここがポイント

板書と対応したワークシートを準備し、板書のキーワードを使って、目的による違いを書きまとめられるようにする。違いを書きまとめる観点を書いた掲示物を提示し、それぞれの観点から目的による違いをまとめられるようにする。

授業の様子



(期待される児童の姿)

板書で整理された内容を手がかりに違いを比べ、キーワードを提示することで、それぞれの表し方の違いに気を付けながら、まとめることができるようになる。

読むこと①

第4学年

「対比」「まとめ」など段落相互の関係を考え、筆者の工夫に気付き、自分の経験や知識と関連付けて読んだり交流したりし、読みを深め広げること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。

T：アップとルーズのどちらでテレビを見たいですか？
C：ルーズで見たいです。広い範囲で見えるからです。

叙述から根拠を探すことはできるが、本文にある言葉でしか伝えることができず、自分の経験と結び付けた理由を伝えて説明することができにくい。(抽象的な文中の表現を、具体的な自分の言葉で説明することが難しく、読みが浅い)

実践の概要

単元名

段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう

『アップとルーズで伝える』光村図書

目標 登場人物の行動や会話から、人物の人柄や気持ちをとらえて読み、心に残ったことを自分の言葉でまとめてポスターに書き入れ、伝え合うことができる。

内容 ・場面ごとに登場人物の人柄や気持ちをとらえ、ワークシートに書いて交流する。
・一番心に残ったことを、ポスターに表す。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	自分の感じたことを、朗読で表現しよう	作者の思いを読み取るだけになって、自分の経験や思いを関連付けて、読みを深めることができない。
第5学年	説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 本文をもとに文章の構成・構造をとらえられない。 自分の考えを述べるときに、自分の知識や経験と結び付けながら説明することができない。
第4学年	段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう	段落相互の関係を考えたり、叙述を自分の経験や知識と関係付けて主体的に読み深めたりできない。
第3学年	心にのこったことを、自分の言葉で表そう	伝えたいことを条件に合わせて、まとめて書くことができない。
第2学年	知っていることとつなげて読もう	長文になると、「問い」に対する「答え」の部分が見分けられない。
第1学年	おはなしのおみせやさんごっこをしよう	自分の経験と結び付けて想像豊かに読み、自分の考えをまとめたり広げたりできない。

単元末の目指す姿

- ・叙述に根拠を求めながら自分の知識や経験と結び付けて理由を言うことができる。
- ・叙述の言葉をより具体化することができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

自分の立場を明確にして、その立場を選んだ理由をワークシートに書き、交流する活動を行う。

活動のねらい ▶ キーワードを抽出し、それを根拠に自分の言葉で意見交流できる。

ここがポイント

それぞれの立場を選んだ理由を交流することによって、それぞれの具体的な特徴をとらえることができる。出てきた意見を分類しながら板書し、視覚的にとらえやすいようにまとめることで、「対比」に気付くことができる。

授業の様子



私はルーズ派。広い範囲が見えるから。

例えば、背景。どんな場所で行っているか。お客さんはどれくらい知りたい。

広い範囲って？例えば、どんな場面が見たいの？

(期待される児童の姿)

自分の考えを述べることで、経験の中での映像が思い出され、教材文の中だけで終わるのでなく、教材文と自分の経験とを結び付けて読むことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

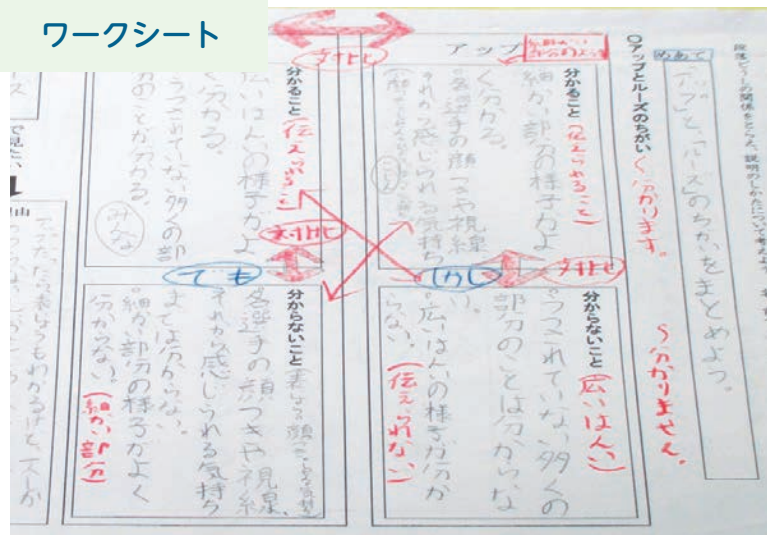
それぞれの立場について、伝えること・伝わらないことを整理して振り返る活動を行う。

活動のねらい ▶ 筆者の説明の工夫に気付くことができる。

ここがポイント

ワークシートを用いて、それぞれの立場からわかること、わからないことを整理し、それをもとに、筆者が何を伝えたいために、どのような例を示しているのかを考える。

ワークシート



(期待される児童の姿)

ワークシートを活用し、本文からアップとルーズの特徴という情報を取り出し、さらに理由を考えることで、本文の意味を解釈することができる。さらに、内容を把握するだけにとどまらず、わかりやすく伝えようとする筆者の意図に気付かせることができる。

第4学年

読むこと②

登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。

なぜ、このようないたづらをするのか、という部分まで踏みこめていない。

人間がこまるよう
ないたづらばかりす
るきつねです。

ごんはいたづらっ子
だったことが分かり
ました。

本文中の「いたづらばかりしました。」という表現にしか注目できていない。

実践の概要

単元名

読んで考えたことを話し合おう

『ごんぎつね』 光村図書

目標 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。

- 内容**
- 感想を発表し合い、学習への見通しをもつ。
 - 場面ごとに読み、登場人物の関係や心情について考える。
 - ごんの心情をまとめた「ごん日記」を書き、紹介し合う。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第6学年	宮沢賢治が創り出す世界を味わおう	登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえることができず、主題にせまる考えをもつことができない。
第5学年	すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう	一方的なものの見方から抜け出せず、主題にせまる感想をもつことができない。
第4学年	読んで考えたことを話し合おう	登場人物の姿・様子について、文中の一部から表面的にしかとらえられない。
第3学年	場所の移り変わりをとらえて感想をまとめよう	中心人物の様子を表す言葉から、中心人物の置かれている状況を想像して、気持ちを書くことができない。
第2学年	音読げきをしよう	叙述に込められている登場人物の気持ちの変化を想像することができない。
第1学年	音読発表会をしよう	場面の様子や登場人物の言動を表す言葉を見つけ、想像を広げることができない。

単元末の目指す姿

- 自分の想像からではなく、文中の表現を根拠として人物の気持ちについて考えることができるようになる。
- ワークシートを用いることで、自分の考えを整理してまとめることができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

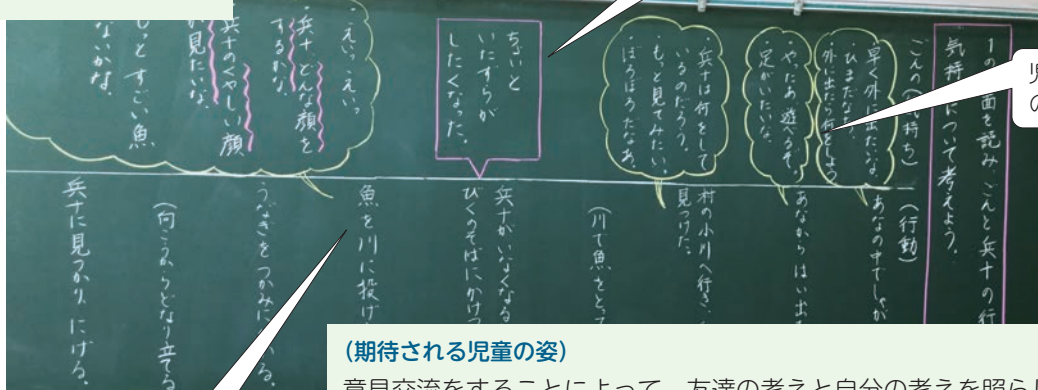
主人公の気持ちが最も表れている一文を見つけさせる。

活動のねらい ▶ 一文に込められた意味を考え、そこから登場人物の行動や心情の変化をとらえさせる。

ここがポイント

- 登場人物の気持ちが変わったと考えられる一文を選ぶ。
- 叙述をもとに選んだ理由を交流させる中で、共通点等を整理し、行動の背景にある心情についても考えさせる。

板書の工夫



決め手になった一文を板書の中心に置く。

児童の発言をふき出しの形でまとめていく。

(期待される児童の姿)

意見交流をすることによって、友達の考えと自分の考えを照らし合わせつつ、常に叙述を根拠にしながら検討をすることができる。また、ごんの行動について、その背景となる気持ちまで読み深めることができる。

児童に配るワークシートと同様の構成にする。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

ワークシートで、登場人物の行動と気持ちの関係を整理させる。

活動のねらい ▶ 文中の言葉を根拠として、人物の心情に迫らせることができる。

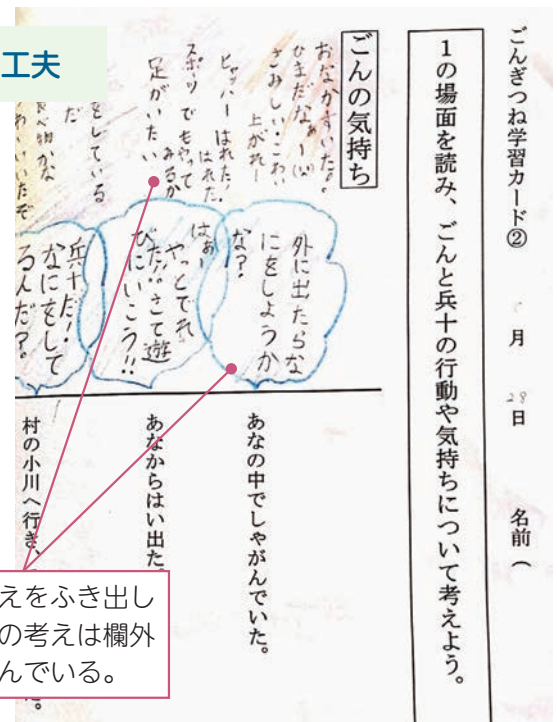
ワークシートの工夫

ここがポイント

ワークシートの下段に、教材文に記載されている登場人物の行動を示しておく。上段の空きスペースにふき出しを作り、それぞれの行動に対応するように気持ちを書きこませる。気持ちが変わった部分のふき出しには違う色を付けさせ、気持ちの変化について整理をさせていく。

(期待される児童の姿)

ごんの行動についての叙述と、その時の気持ちを時系列に整理していくことで、因果関係をとらえ、気持ちの変化を明確にとらえることができる。



自分の考えをふき出しに、友達の考えは欄外に書きこんでいる。

ごんぎつね学習カード②

月 日

名前 ()

1の場面を読み、ごんと兵十の行動や気持ちについて考えよう。